

文部科学省委託事業 職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進
平成 27 年度「職業実践専門課程」の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証
実践的教育課程の企画手法と学習者主体の授業計画ができる研修モデルの実践および普及

実証講座

インストラクショナルデザイン講座

中堅教員編

《テキスト》

一般社団法人 全国専門学校教育研究会

目 次

第1章	オリエンテーション	4
1.	開発の目的	5
2.	職業実践専門課程とIDの関係	6
3.	講座の目標	7
4.	講座のタイムスケジュール	8
第2章	インストラクショナルデザインの概要と必要性	9
1.	IDとは	10
2.	IDの理論	11
3.	IDの事例	12
4.	システム的な授業設計・開発の手順	14
5.	専門学校の授業設計の流れ	15
	演習	16
第3章	学習目標の明確化	17
1.	目標とは	18
2.	学習目標を明確にするポイント	19
3.	学習目標の明確化の重要性	20
4.	学習目標の例1	22
5.	学習目標の例2	23
	演習	24
	修正例	25
6.	学習目標の領域	26
7.	目標の階層	27
8.	授業の責任範囲	28
第4章	課題分析	29
1.	課題の分析	30
2.	分析手法1「クラスタ分析」	31
3.	分析手法2「階層分析」	32
4.	分析手法3「手順分析」	34
	演習 階層分析	35
	演習 共有とディスカッション	36
5.	手順分析例	37
	演習 手順分析	38
第5章	シラバスの作成	39
1.	シラバスの作成手順	40
2.	課題分析図、シラバスの見直し	42
3.	課題分析図（ロードマップ）の作成	43
4.	シラバスの作成	44
第6章	まとめ	46
1.	ふりかえり	47
付録	ワークシート	50
1.	シラバスフォーマット	51

ご あ い さ つ

中央教育審議会答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成 23 年 1 月）においては、職業教育の重要性を踏まえた高等教育を展開していくための方策として、職業実践的な教育のための新たな枠組みを整備することが求められました。併せて、「今後の検討については、新たな学校種の制度を創設するという方策とともに、既存の高等教育機関において新たな枠組みの趣旨をいかしていく方策も検討すること」とされました。これを受け、「専修学校の質保証・向上に関する調査研究協力者会議」において、「職業実践専門課程」創設を求める報告が平成 25 年 7 月にまとめられました。

また、第 2 期教育振興基本計画（平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）においても、高等教育における職業実践的な教育に特化した新たな枠組みづくりに向けて先導的試行などの取組を段階的に進めることが示されました。これにより、「職業実践専門課程」を文部科学大臣が認定し、奨励する制度が平成 26 年度からスタートしました。

これを踏まえ、学校評価の充実のための取組を支援するとともに、「職業実践専門課程」制度の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証、「職業実践専門課程」の各認定要件等に関する先進的な取組など更なる質保証・向上の取組を推進し、課題やノウハウを取りまとめ、検証を行い、その結果を広く全国に提供することにより、「職業実践専門課程」等を通じた専修学校全体の質保証・向上を図ることとなりました。

このような経緯を受け、一般社団法人全国専門学校教育研究会では、平成 26 年度より「職業実践専門課程の推進を担う教員養成研修モデルの開発・実証」について事業を展開してまいりました。

平成 27 年度は事業テーマを、『実践的教育課程の企画手法と学習者主体の授業計画ができる研修モデルの開発・実証』とし、職業実践専門課程の教育を行う上で、企業・業界が求める人材育成を行うための教育課程編成を行う分析・設計技法を習得する研修プログラムの開発・実証し、インストラクショナル・デザインを用いた育成人材像の必須スキル明確化・評価基準可視化されたシラバスの作成ができ、学習者主体の授業計画ができる教員養成を多地域で教員の研修レベルに応じて実施可能なプログラム・スキームの開発・実証を行うことを主眼に事業を進めてまいりました。

ここに事業成果として、以下の資料をご提示させていただきます。皆様方のご参考になれば幸いです。

1. インストラクショナルデザイン講座

- 1) 新任教員編 ①テキスト ②指導書 ③実施マニュアル
- 2) 中堅教員編 ①テキスト ②指導書 ③実施マニュアル
- 3) 講師養成編 ①テキスト ②指導書 ③実施マニュアル

2. E-ラーニング

- 1) E-ラーニング概要

一般社団法人全国専門学校教育研究会会長
学校法人浦山学園理事長
浦山 哲郎

第1章 オリエンテーション

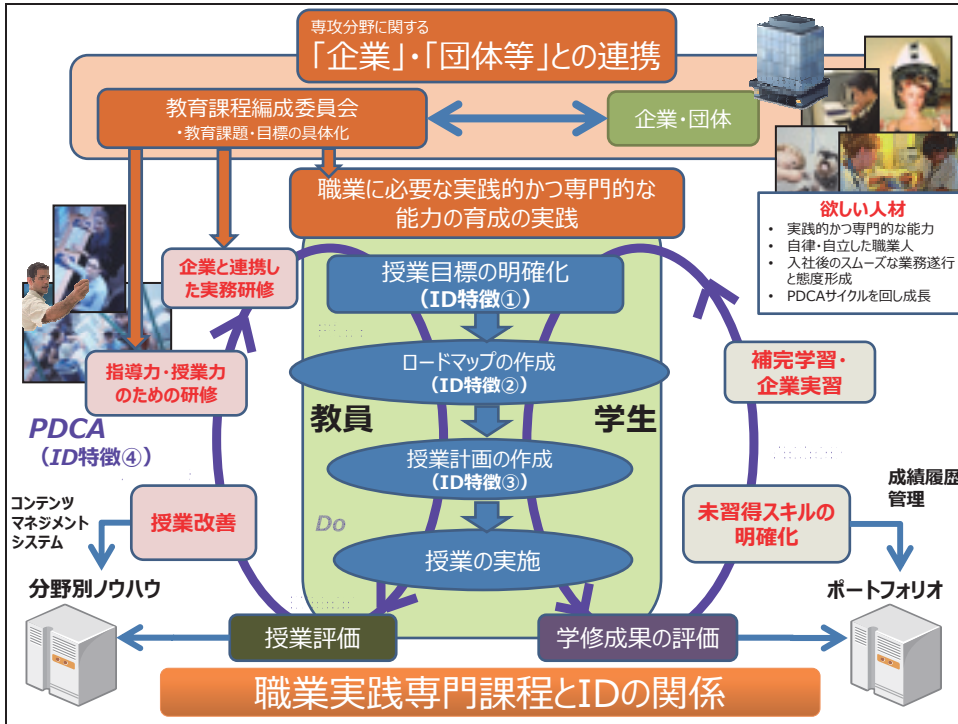
1. 開発の目的

- ▶ 職業実践専門課程として企業等のニーズを取り入れるカリキュラム・シラバスの作成ができる教員の養成
- ▶ 企業が求める知識・技術等を、学生がより高い水準で習得できるように、インストラクショナルデザイン（以下ID）を用いた体系的なカリキュラムの編成を行える教員の養成
- ▶ 産学連携による多様な教育方法を活用し、目標とする人材像に必須のスキル、もしくはその評価基準を可視化したシラバスの作成が行える教員の養成
- ▶ 教員同士が相互フィードバックし、教育設計を学びあう仕組みと土壌を作成する

受講の対象者

- 専門課程を設置する専修学校に籍をおく教員等
- 今までインストラクショナルデザインの研修を受講したことがある方。
- もしくは同等の知識がある方。 例) インストラクショナルデザイン講座（新任教員向け）など
- コマシラバスを作成して授業を実施している方
- すでに一年以上の教員経験があり 1 コマの授業設計を行い実施している方
- 半期または1年の授業の設計を行う予定の方
- 半期または1年の授業の設計を見直したいと思っている方

2. 職業実践専門課程とIDの関係



3. 講座の目標

- 授業改善に有効な教科目への教育ニーズの反映や評価方法を明確化できる
- 目標を分類でき、分析方法を判別できる
- 課題分析図（ロードマップ）を作成することができる
- 階層分析、手順分析、クラスタ分析の各分析方法により分析図を作成できる
- チャンクダウンとチャンクアップを行いながら、より教育ニーズを反映した目標設定と分析を行える
- 教育カリキュラムの無理・無駄を抽出しながら、より効率的な分かりやすい課題分析図（ロードマップ）の作成ができる

- 学科、科目の設計に当てはめて ADDIE の各プロセスを説明できる
- 自分の担当科目の設計に ADDIE モデルを適用できる
- 実際の授業、シラバスで明確な学習目標を設定できる
- 担当学科の課題を 3 つの領域（及び4つの技能）で説明できる（認知領域、運動領域、随意領域）
- 自分の科目の学習課題がどの領域にあたるか判断でき、適切な手法を使用して分析し課題分析図を作成することができる
- 言語情報の学習課題を分析して学習しやすい塊にわけることができる
- 運動技能の学習課題を分析して習得しやすい順番で分けることができる。その手順に必要な知識をクラスタ分析、必要な技能を階層分析できる
- 知的技能、態度の学習課題を分析して目標をブレイクダウンして学習しやすい塊にわけることができる

4. 講座のタイムスケジュール

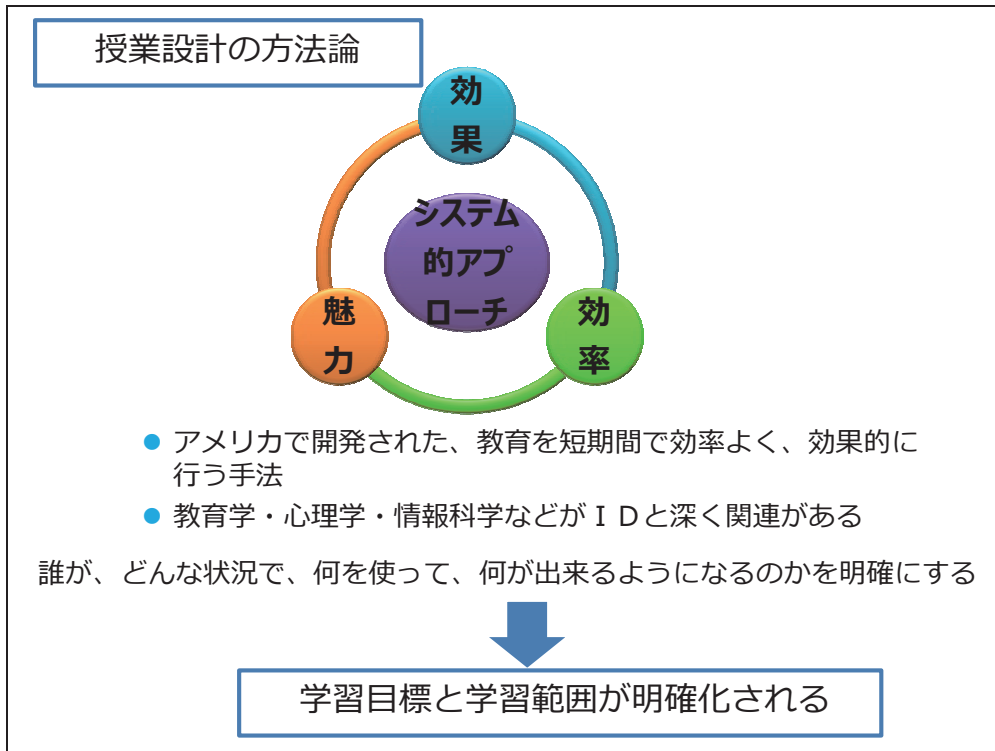
時間	内容
9:00	1. オリエンテーション
	2. インストラクショナルデザインの概要と必要性
9:30	3. 学習目標の明確化
10:30	4. 課題分析図（ロードマップ）の作成
	【演習】一つの目的を決め、グループで課題分析図（ロードマップ）の作成
	発表・フィードバック
12:00	昼休憩
13:00	【演習】課題分析図（ロードマップ）の作成【各自の実施科目】
	発表・フィードバック
15:30	振り返り
16:00	ポスターセッションによる発表・フィードバック
16:30～17:00	まとめ、アンケート記入、閉講

第2章 インストラクショナルデザインの概要と必要性

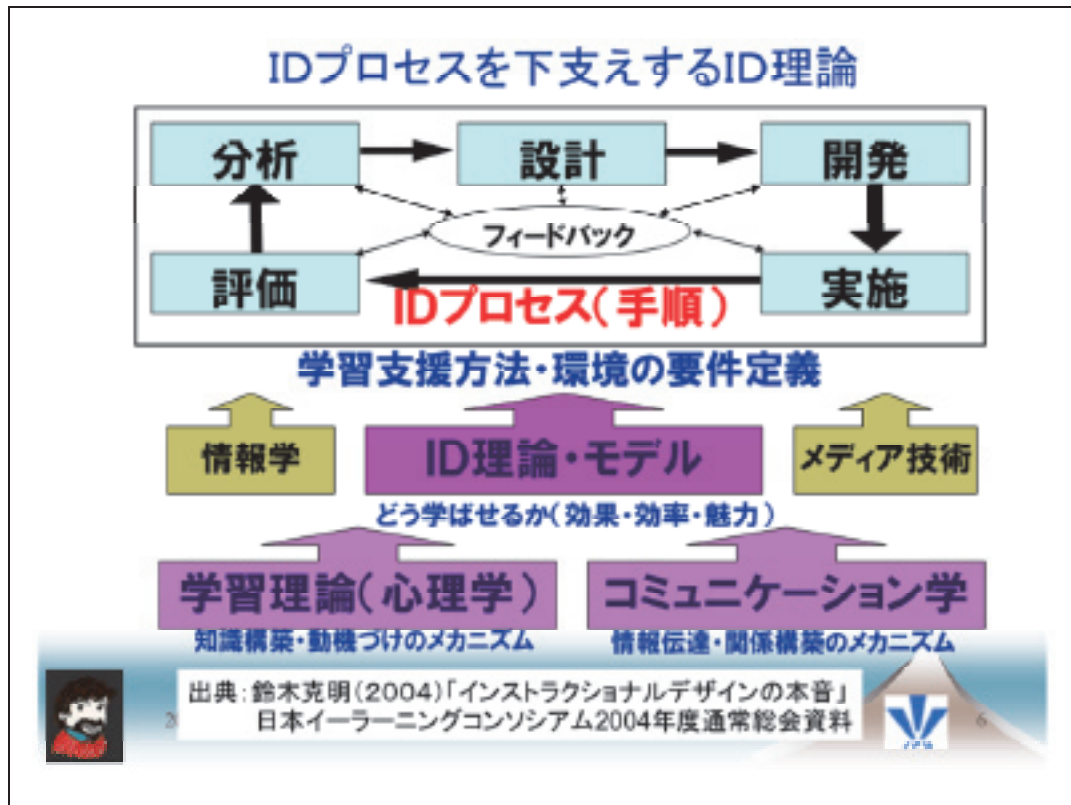
ポイント

- ・ インストラクショナルデザインの目的、メリットが説明できる

1. ID とは

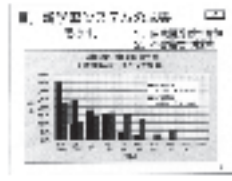
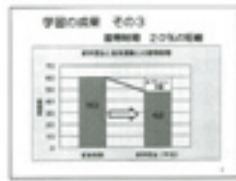


2. ID の理論



3. ID の事例

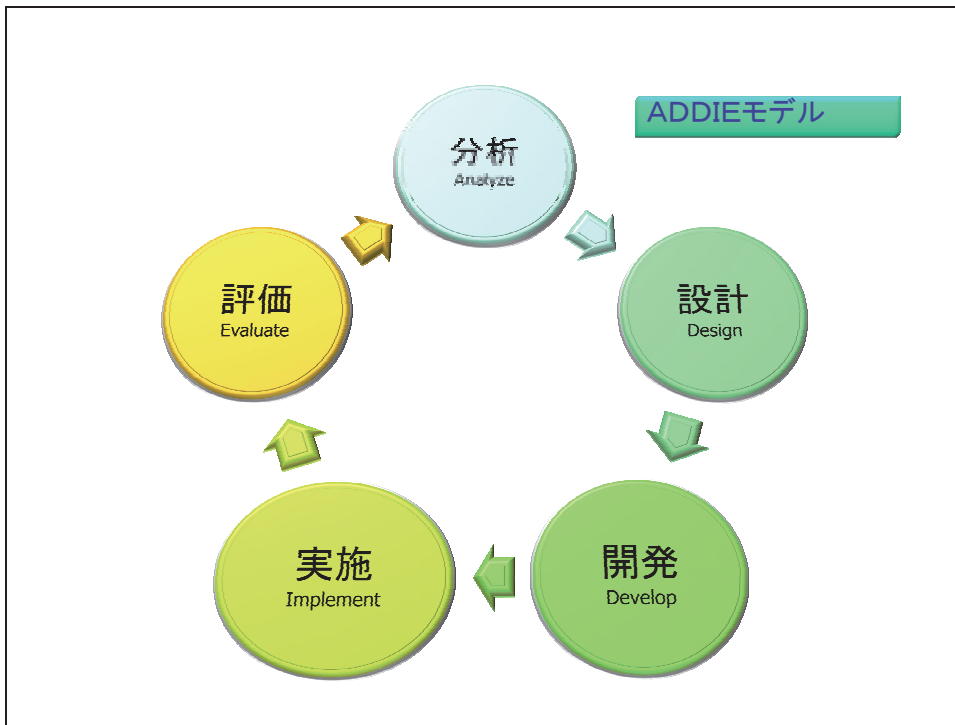
- 日本マクドナルド
- NEC
- キヤノン
- JTB
- ホンダ学園
- 明治大学
- 吉備国際大学
- 福島大学附属中学校



ホンダ学園事例より

-メモ-

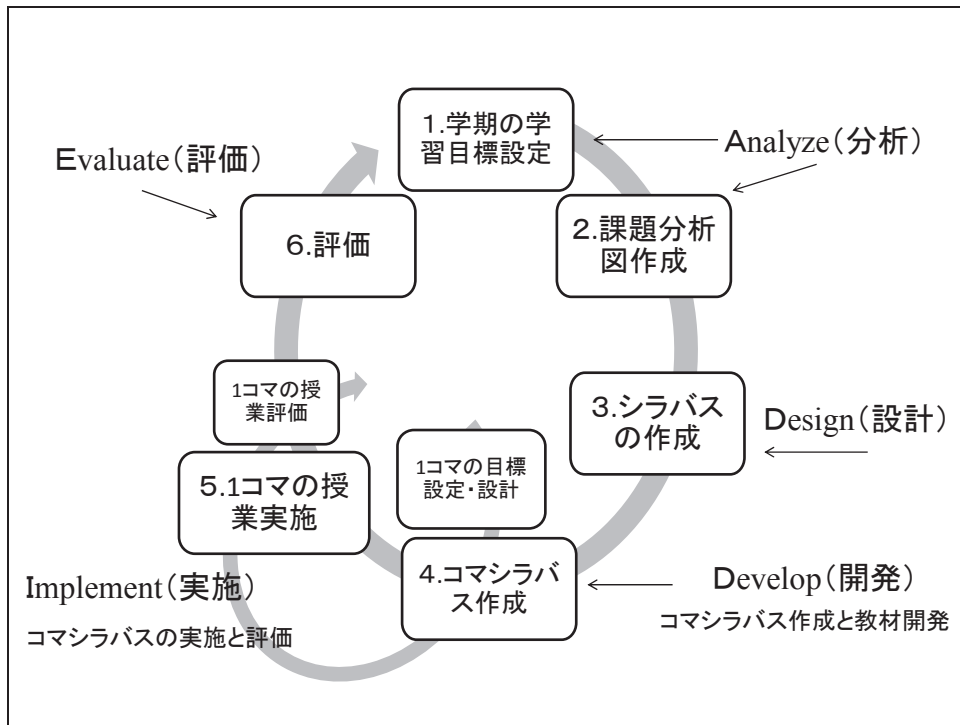
4. システム的な授業設計・開発の手順



Analyze (分析)	教育ニーズを分析して、教育対象の設定や目標と評価基準の設定などを行う。
Design (設計)	目標達成に向けた具体的なシラバスの設計を行なう。学習期間の設定や目標に合わせた具体的な教え方を考えるプロセス。
Develop (開発)	実際に学習を行うための準備です。学習教材を作成する、eラーニングのシステムを導入する、などのように学習に必要な環境を用意する。
Implement (実施)	シラバス、指導案に基づいて授業を実施する。
Evaluate (評価)	学生の理解度、テスト結果、アンケート、自分自身や他の教員からの振り返りで評価する。

。

5. 専門学校での授業設計の流れ



演習

10分間

■ ディスカッション

現状の授業をどのように準備していますか？
科目の進行計画を作っていますか？
また授業の進め方を事前に作っていますか？

グループで情報共有を行いましょう。

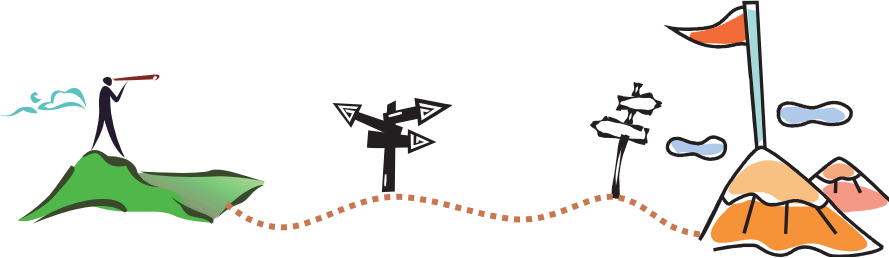

第3章 学習目標の明確化

ポイント

- ・ 目標と目的の関係が説明できる
- ・ 学習目標を3つのポイントを使用して明確に記述できる
- ・ 学習目標を4つの分野に分類できる（言語情報、知的技能、運動技能、態度）

1. 目標とは

- ➔ 目的
 - ➔ 実現しようとしてめざす事柄。行動のねらい。めあて。出典：小学館「大辞泉」 的（まと）、ゴール
- ➔ 目標
 - ➔ そこに行き着くように、またそこから外れないように目印とするもの。出典：小学館「大辞泉」 標（しるし）、マイルストーン



2. 学習目標を明確にするポイント

- **目標行動** （何ができるようになるのか）
 - 学習者の行動で学習目標を表す
 - 説明できる、適用できる、評価できる、判別できる、考案できる、決定できる、など観測可能な言葉を使う
- **評価条件** （どういう条件下で学習目標に達するか）
 - どのような条件で実施してもらうか。
「一人で」「何も見ないで」「何分以内で」等
- **合格基準** （どこまでできれば合格なのか）
 - 全問正解、3つの学習目標のうち2つ、一か月以内で、など
 - 正式なコートでサーブを打つことができ、20本中16本入る

数値化がポイント！

目標はいくつあってもよい

3. 学習目標の明確化の重要性

次の目標について考えてください。

これを見た学習者は、何がどうなれば目標を達成できるのかわかるでしょうか。

1. 江戸時代の文化を理解する
2. Excelの基礎を身につける
3. 挨拶を身につける

- ➡ どのような前提知識を持っている人に何を教えるのか。その人がどうなったら成功か。
- ➡ 何ができれば「習得した」と認められるのか？

どんなことが「理解した」ことなのかは人によって違う。
そこを明確にする。
目標の難易度は、対象や期間によってかわる。

4. 学習目標の例 1

「江戸時代の文化を理解する」

⇒修正例

何も見ずに江戸時代を代表する作家3名とその代表作を正しく書くことができる

「Excelの基礎を身に付ける」

⇒修正例

Average関数を使用して20人の成績一覧表を作成できる。罫線を使用して表を作成し、それを棒グラフにして同時に表示することができる。以上2つのうち一つができれば合格

「挨拶を身につける」

⇒修正例

相手と会ったときに、自分から先にTPOにあった正しい言葉で挨拶ができる。状況によってはお辞儀もできること。

5. 学習目標の例 2

金銭感覚を養う（小学4年生）

- ➡目標行動：×
- ➡評価条件：×
- ➡合格基準：×

➡修正例

- ➡お小遣い帳を一人で毎日つけることができる。
- ➡残高が実際にある金額と合っていること。
- ➡もし、合わない場合はその理由を考えて自分なりの推測を保護者に報告することができる。
- ➡上記のことを最低一ヶ月続けることができる。

演習

★目標を明確にする

10分間

1. 初歩のExcelをマスターする
2. 信頼関係を構築する
3. リーダーシップを身に着ける
4. 目的意識を持って生活する
5. グローバル人材として世界に羽ばたく

使ってはいけない語句！

- 理解する
- 身に着ける
- 習得する
- マスターする

【演習シート】

1

2

3

4

5

修正例

P48

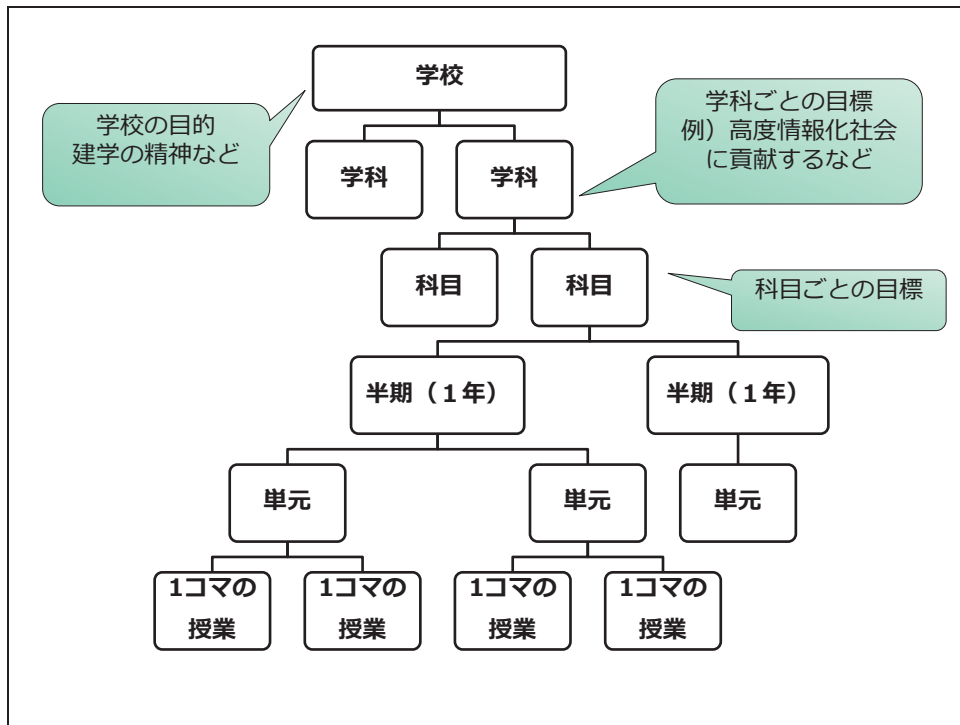
6. 学習目標の領域

- 学習目標は以下の3種類の分野に分けられ、さらに4つに分類できる
 - 認知領域（あたま）・・・言語情報と知的技能
 - 言語情報：五大栄養素を説明できる
 - 知的技能：3桁の掛け算が行える
 - 運動領域（からだ）・・・運動技能
 - 6段の跳び箱が飛べる、タッチタイピングでプログラムが打てる
 - 情意領域（こころ）・・・態度
 - グループワークでリーダーに立候補できる、煙草を吸わないようにする

アメリカの心理学者、ブルーム(Bloom,B)、ガニエの分類

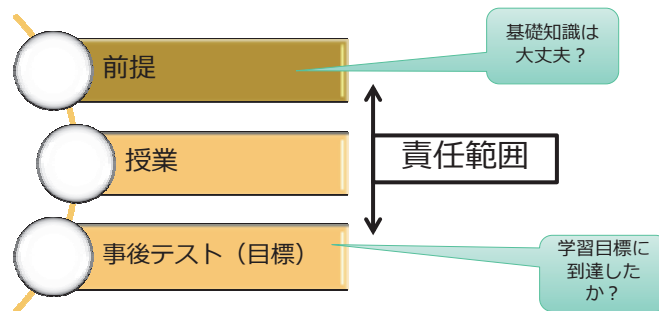


7. 目標の階層



8. 授業の責任範囲

- ➡ 入口と出口
 - ➡ 入口：学習者の前提条件…資格があるかどうか、基礎知識を持っているか。できなさすぎる人を除外する。アンケート、テストの形をとることもある
 - ➡ 出口：学習目標…学習目標に到達したかどうかを確認するテストを事後テストと呼ぶ。習得できたかどうかをチェックする
- ➡ 学習者の前提条件と学習目標は授業・教育の責任範囲を明らかにする

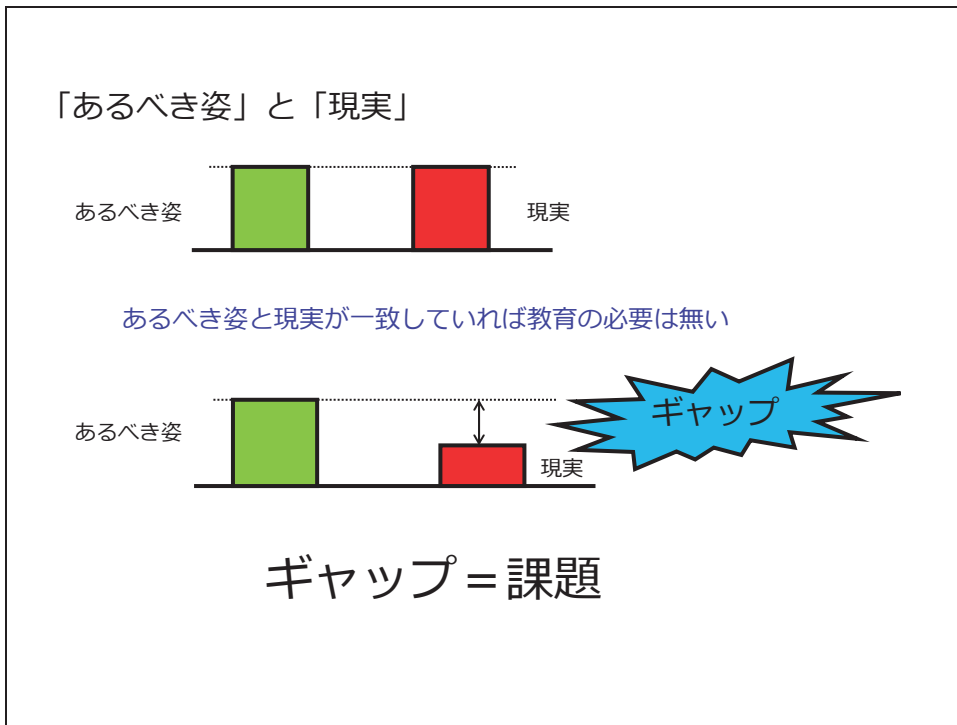


第4章 課題分析

ポイント

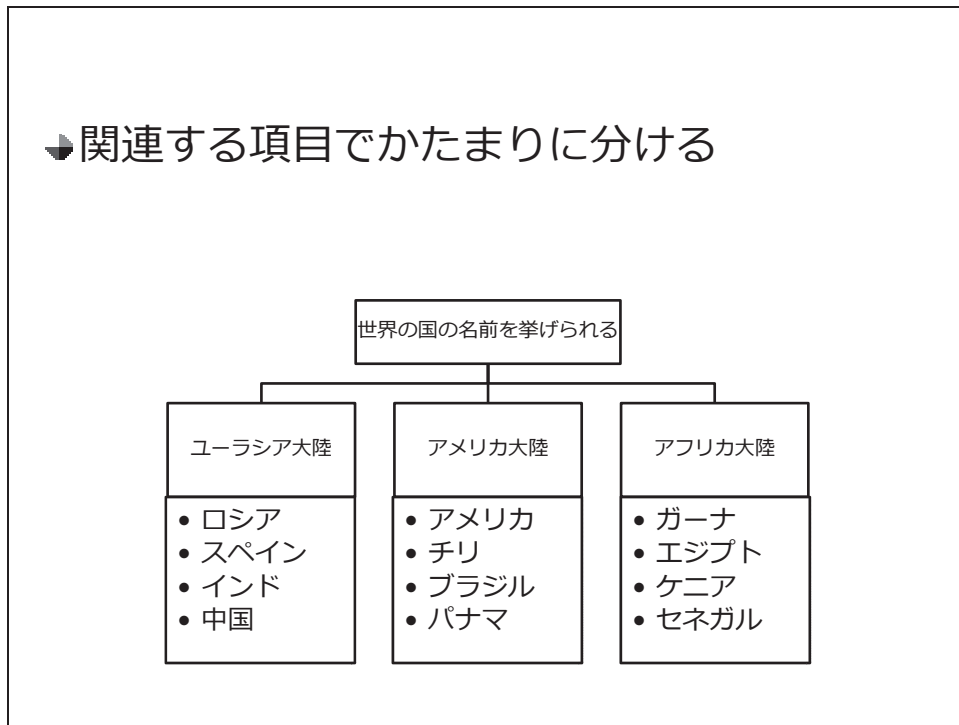
- ・ 課題分析の必要性を説明できる
- ・ 基本の3つの分析手法を説明できる（クラスタ分析、階層分析、手順分析）
- ・ 簡単な課題分析図を作成できる

1. 課題の分析

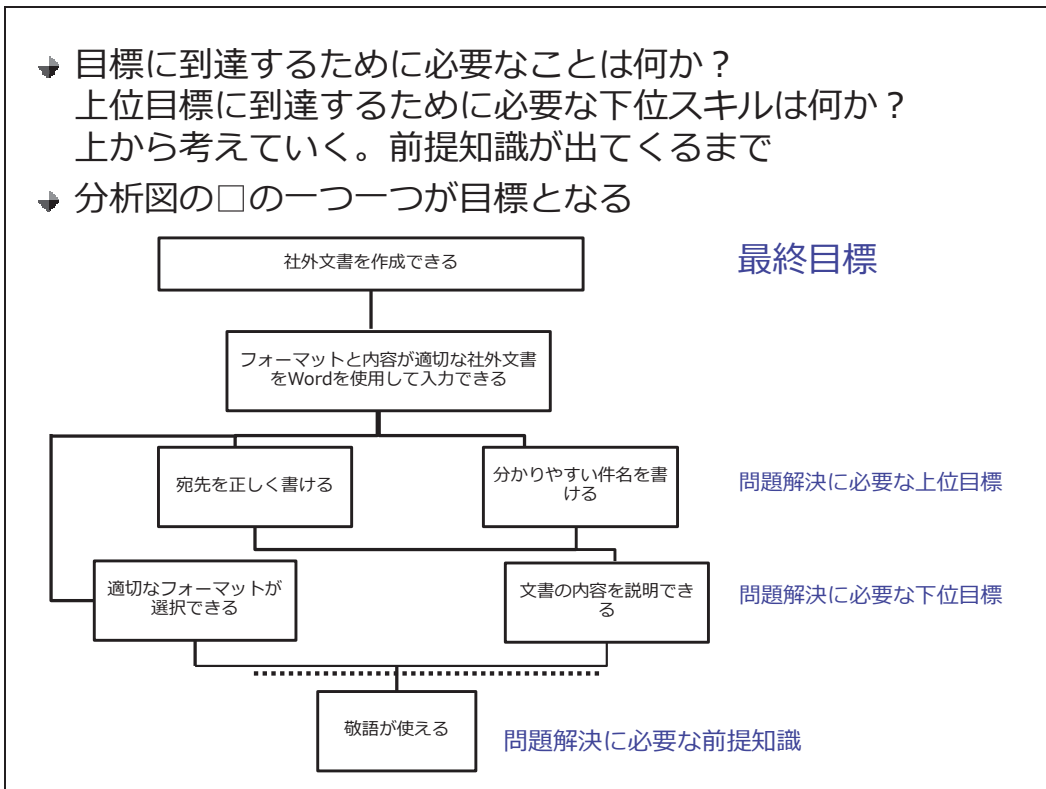


2. 分析手法 1 「クラスタ分析」

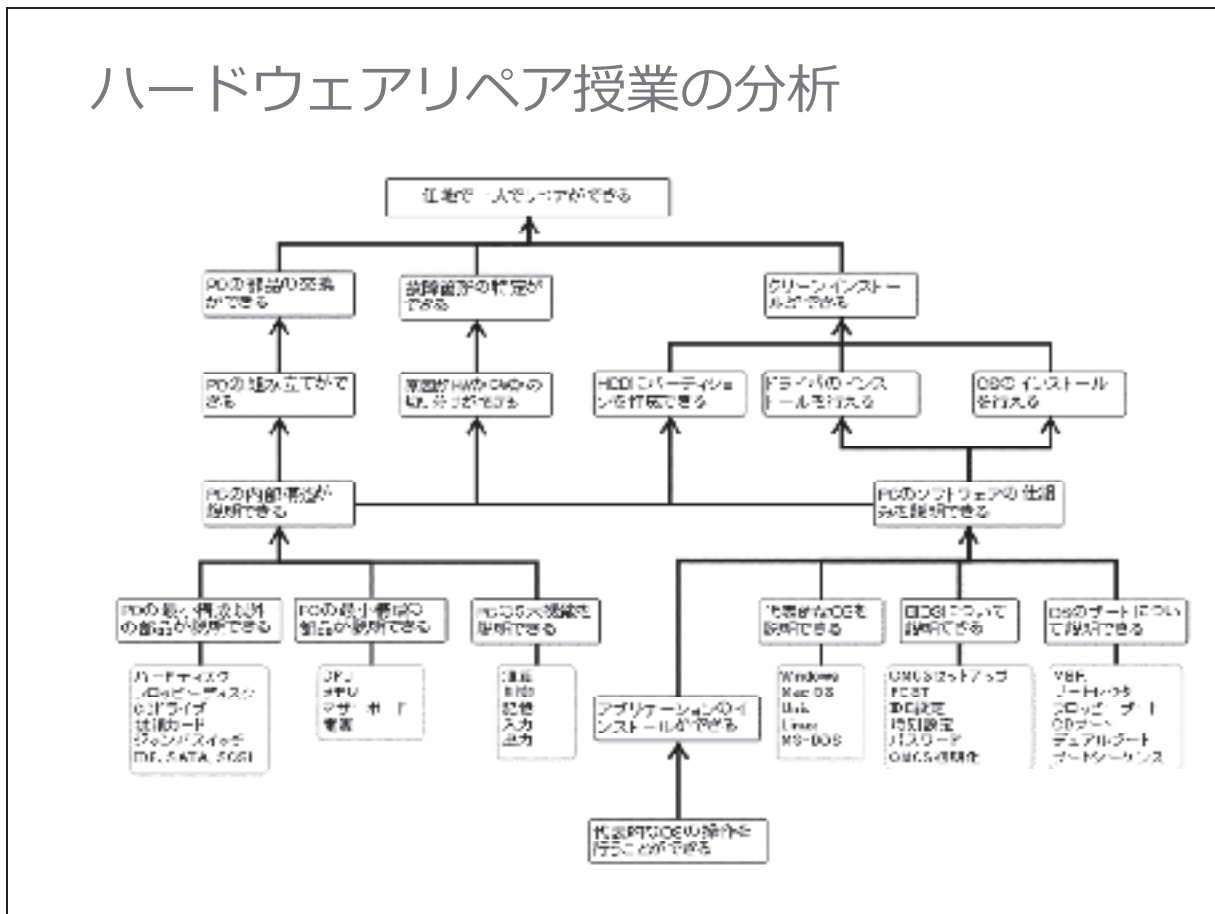
➡ 関連する項目でかたまりに分ける



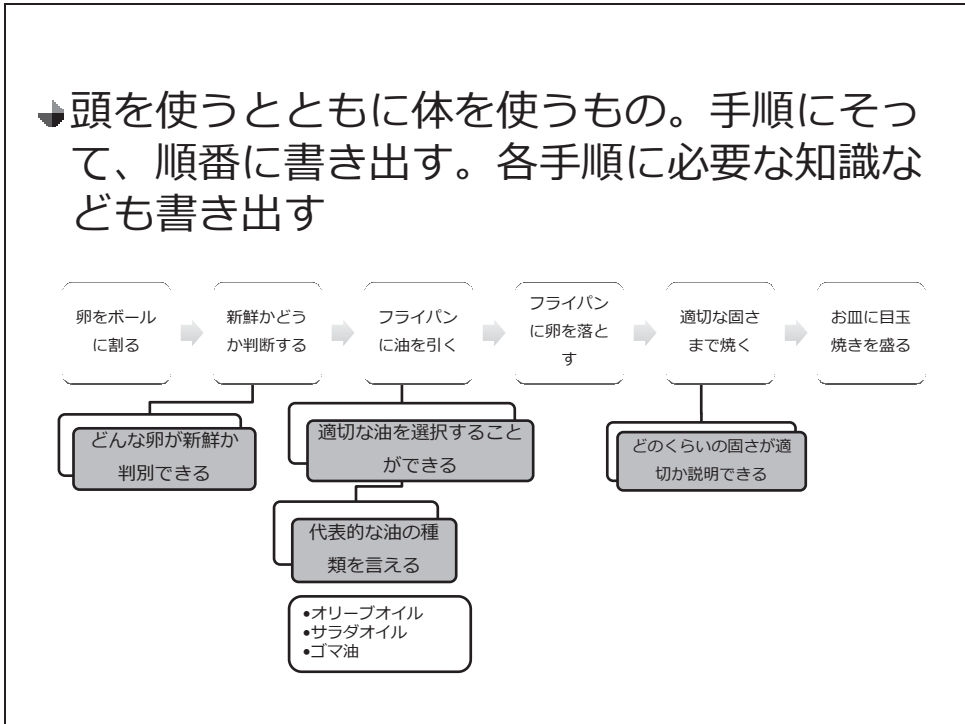
3. 分析手法 2 「階層分析」



階層分析の例 1



4. 分析手法3「手順分析」



演習 階層分析

★演習 階層分析

(30分)

- グループメンバーの持参した自学校の理念・目的、学校の目指す人材像、などが分かる資料から一つ目的を設定し、グループで階層分析を行います
 1. その目的を達成するためには何を教える必要があるか、各自で下位スキルを考え、ポストイットに書き出します。ポストイット1枚につき一つ、たくさん書き出してみましよう
 2. 模造紙の一番上に目的を書き込み、下位スキルのピラミッドを作ります。ポストイットの関連するものをまとめたり、上位のものか下位のものかを話し合って移動させたり言葉を変えたりしながら課題分析図を完成させましよう

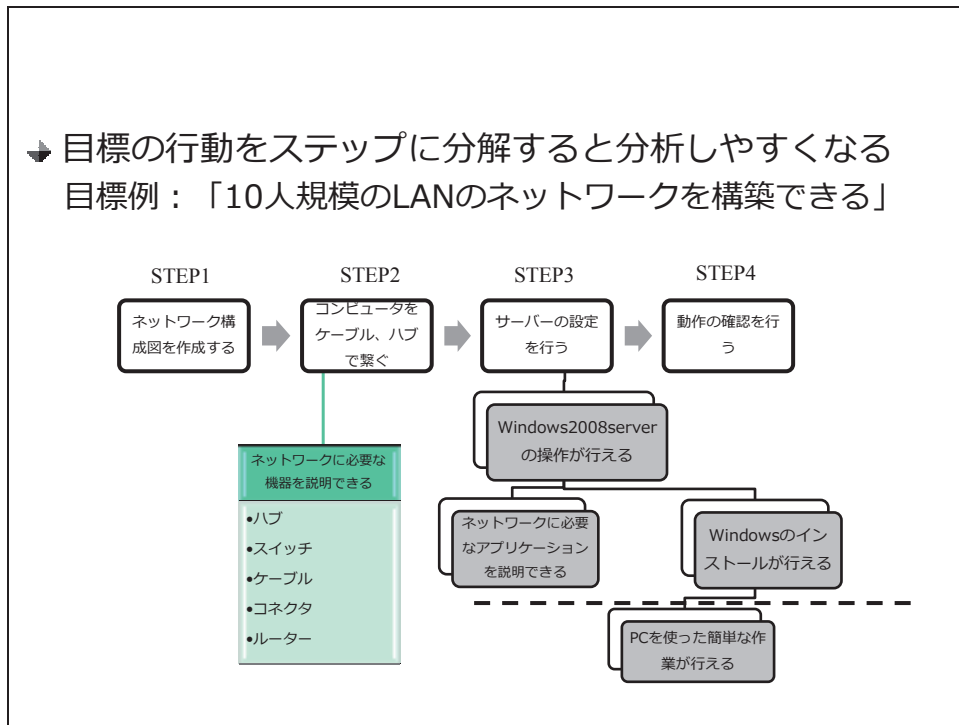
演習 共有とディスカッション

★演習 共有とディスカッション

- 各グループが作成した課題分析図を貼り出します。他のグループが作成した分析図を見てください
- この演習で気づいたことをグループで話し合ってみましょう



5. 手順分析例

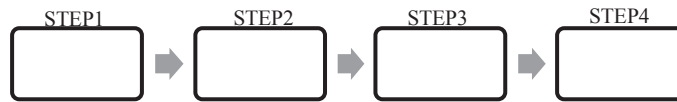


演習 手順分析

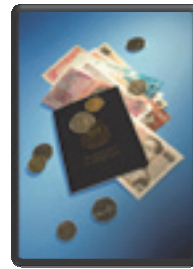
★演習 学習目標の分析2

10分間

👉 「1人で人生初の海外旅行に行く」という目標を
手順分析を用い、ステップに分解してみましょう



大きなステップの中にある「小さなステップ」を行動の順番に明らかにしていくことを意識します。ステップはいくつあっても構いません。

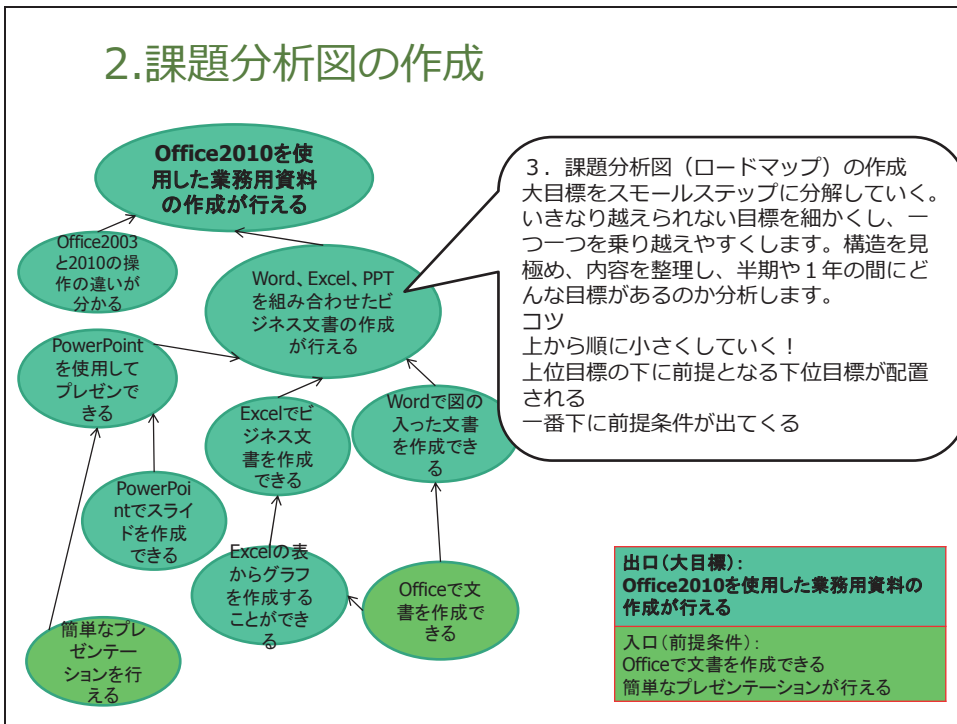
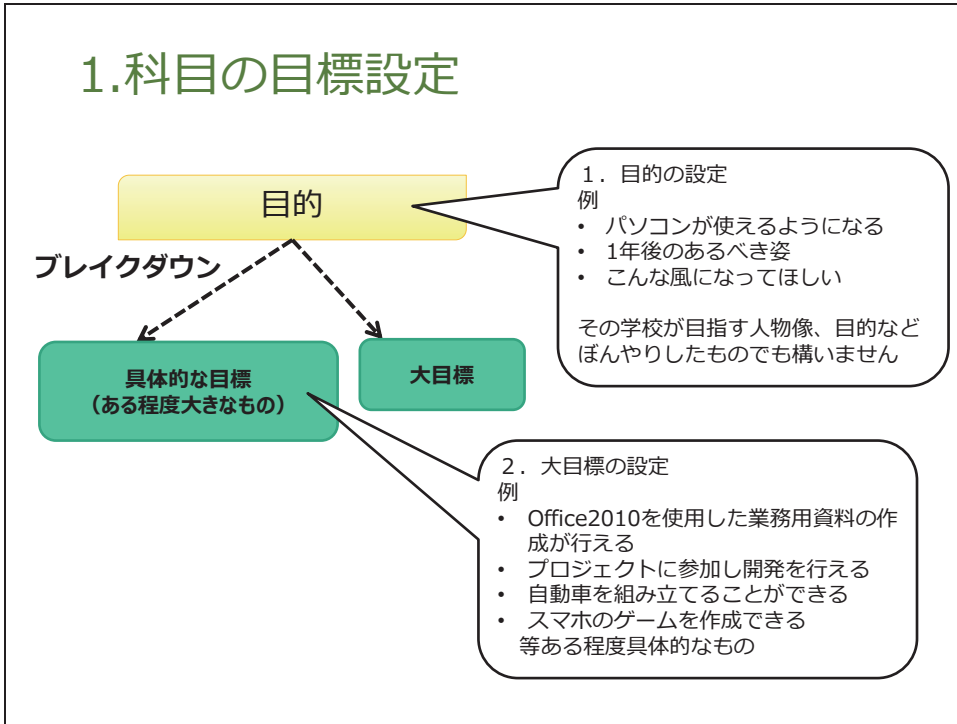


第5章 シラバスの作成

この章のポイント

- ・ 課題分析図から1回の授業に適した範囲を判断し、順番を考え、シラバスを作成できる
- ・ 自分の科目のシラバスを作成し、他者のフィードバックをうけて自分のシラバスを見直すことができる

1. シラバスの作成手順



3. シラバスの作成

半期 目標:	Office2010を使用した業務用資料の作成が行える	備考
1	Wordの文書作成が行える	
2	Wordで図の入った文書を作成できる	
3	Wordでのビジネス文書作成が行える	
4	Excelの表の作成が行える	
5	Excelで表からグラフを作成することができる	
6	Excelでビジネス文書を作成できる	
7	PowerPointでスライドを作成できる	
8	PowerPointを使用してプレゼンテーションを行える	
9	Word、Excel、PPTを組み合わせたビジネス文書の作成が行える	
10	Office2003と2010の操作の違いが分かる	
11	Office2010を使用した業務用資料の作成が行える	
12	総合演習	

4. カリキュラムの作成
ロードマップの一つ一つの目標をコマ（学習のひとかたまり）に分け、順番に並べる
ロードマップの修正、目標の変更などは随時行う

2. 課題分析図、シラバスの見直し

分析した結果から見直す

- ▶ 対象者の前提条件と学習目標が遠すぎないか
- ▶ 想定した時間で学習できるか
- ▶ 事後テストに満遍なく出題されているか
- ▶ 目標は適切か
- ▶ つながりに無理はないか

学習目標を分析 ⇔ 分析結果から学習目標を修正
これを繰り返すことにより学習目標の追加、削除等の修正を行う
→品質の高いシラバス・コマシラバスに繋がる

3. 課題分析図（ロードマップ）の作成

★演習 課題分析図（ロードマップ）の作成

- 自らの担当する、もしくは担当予定の科目の目的を設定し、課題分析図を作成します

階層分析、手順分析、どちらを使っても構いません。考えやすい方法で作成してみましょう。

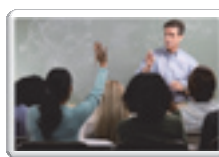


4. シラバスの作成

★演習 シラバスの作成

- 先ほど作成したロードマップをもとに、シラバスを作成してみましょう

作業にはワークシートにある【演習用シラバスフォーマット】を使用してください



★演習 グループ内発表

- 課題分析図、シラバスをグループ内で簡潔に発表し、共有します
相互にフィードバックしてみましょう。



第6章 まとめ

ポイント

- ・ インストラクショナルデザインを使用して授業計画を設計することのメリットを説明できる
- ・ 今後インストラクショナルデザインを活用して行う取り組みを考え、述べることができる

1. ふりかえり

振り返り・まとめ

- IDに関して…
 - IDを使ってみて（振り返り・感想・気付き）
 - IDを使って私はこれから…
- まず自分でまとめる
- 共有・ディスカッション・資料作成
- 発表（ポスター・ツアー）

- 学科、科目の設計に当てはめて ADDIE の各プロセスを説明できる
- 自分の担当科目の設計に ADDIE モデルを適用できる
- 実際の授業、シラバスで明確な学習目標を設定できる
- 担当学科の課題を 3 つの領域（及び4つの技能）で説明できる（認知領域、運動領域、随意領域）
- 自分の科目の学習課題がどの領域にあたるか判断でき、適切な手法を使用して分析し課題分析図を作成することができる
- 言語情報の学習課題を分析して学習しやすい塊にわけることができる
- 運動技能の学習課題を分析して習得しやすい順番で分けることができる。その手順に必要な知識をクラスタ分析、必要な技能を階層分析できる
- 知的技能、態度の学習課題を分析して目標をブレイクダウンして学習しやすい塊にわけることができる

★演習 ポスター・ツアー

1. グループ内で共有した意見をまとめ、模造紙（ポスター）に書き出します（フォーマットは自由）
※メンバーひとりひとりがその内容についてきちんと把握し、大切な点など説明できること
2. ポスターを壁に張り出します
3. グループメンバーにA~Fのアルファベットを割り当てます
4. A~Fそれぞれのメンバーが集まって、新たなグループを作りポスターの前に集まります
5. そのポスターを作成したメンバーが前に出て他メンバーに内容を説明します
6. 次のポスターの前に移動し、説明します

P23 演習の解答例

★学習目標を明確にする

1. 初歩のExcelをマスターする
 - ・ グラフの入った成績表を20分以内に作成できる
 - ・ ピボットテーブルで5種類の分析表とピボットグラフをテキストを見ながら作成できる
2. 信頼関係を構築する
 - ・ 相手の価値観に沿った行動ができる
 - ・ 自分のことを相手に伝え、会話の中から相手と自分の共通点を見つけることができる
3. リーダーシップを身に着ける
 - ・ グループ作業の中でリーダーとして立候補し、グループの時間管理を行うことができる
4. 目的意識を持って生活する
 - ・ 1年後の自分のビジョンを想像し、必要なスキルを考えることができる
5. グローバル人材として世界に羽ばたく
 - ・ 年齢の違った人たちの集まりの中で自分の意見を発信できる
 - ・ 日本以外の世界遺産を調べ、実際に一つを選び訪問する

付録 ワークシート

1. シラバスフォーマット

学科：		担当教員：
科目名：		対象年次： 実施時期：
使用教材：		授業回数：
目標：		
評価方法：		
前提知識：		
回数	学習目標	備考
1	理解度確認方法	
2	理解度確認方法	
3	理解度確認方法	
4	理解度確認方法	
5	理解度確認方法	
6	理解度確認方法	
7	理解度確認方法	
8	理解度確認方法	
9	理解度確認方法	
10	理解度確認方法	
11	理解度確認方法	
12	理解度確認方法	
13	理解度確認方法	
14	理解度確認方法	
15	理解度確認方法	

【演習用シラバスフォーマット】

学科：	担当教員：	
科目名：	対象年次：	実施時期：
使用教材：	授業回数：	
目標：		
評価方法：		
前提知識：		
回数	学習目標	備考
1	理解度確認方法	
2	理解度確認方法	
3	理解度確認方法	
4	理解度確認方法	
5	理解度確認方法	
6	理解度確認方法	
7	理解度確認方法	
8	理解度確認方法	
9	理解度確認方法	
10	理解度確認方法	
11	理解度確認方法	
12	理解度確認方法	
13	理解度確認方法	
14	理解度確認方法	
15	理解度確認方法	

主催	
法人名	一般社団法人 全国専門学校教育研究会
会長	学校法人 浦山学園 理事長 浦山 哲郎
アドレス	http://www.zsenken.or.jp/ 